

インターネット広告の アドインプレッションの解説

Ver.1.1

2007年4月

インターネット広告推進協議会 (JIAA)
エビデンス部会・標準カウンティング検討分科会



Japan Internet Advertising Association

この資料について

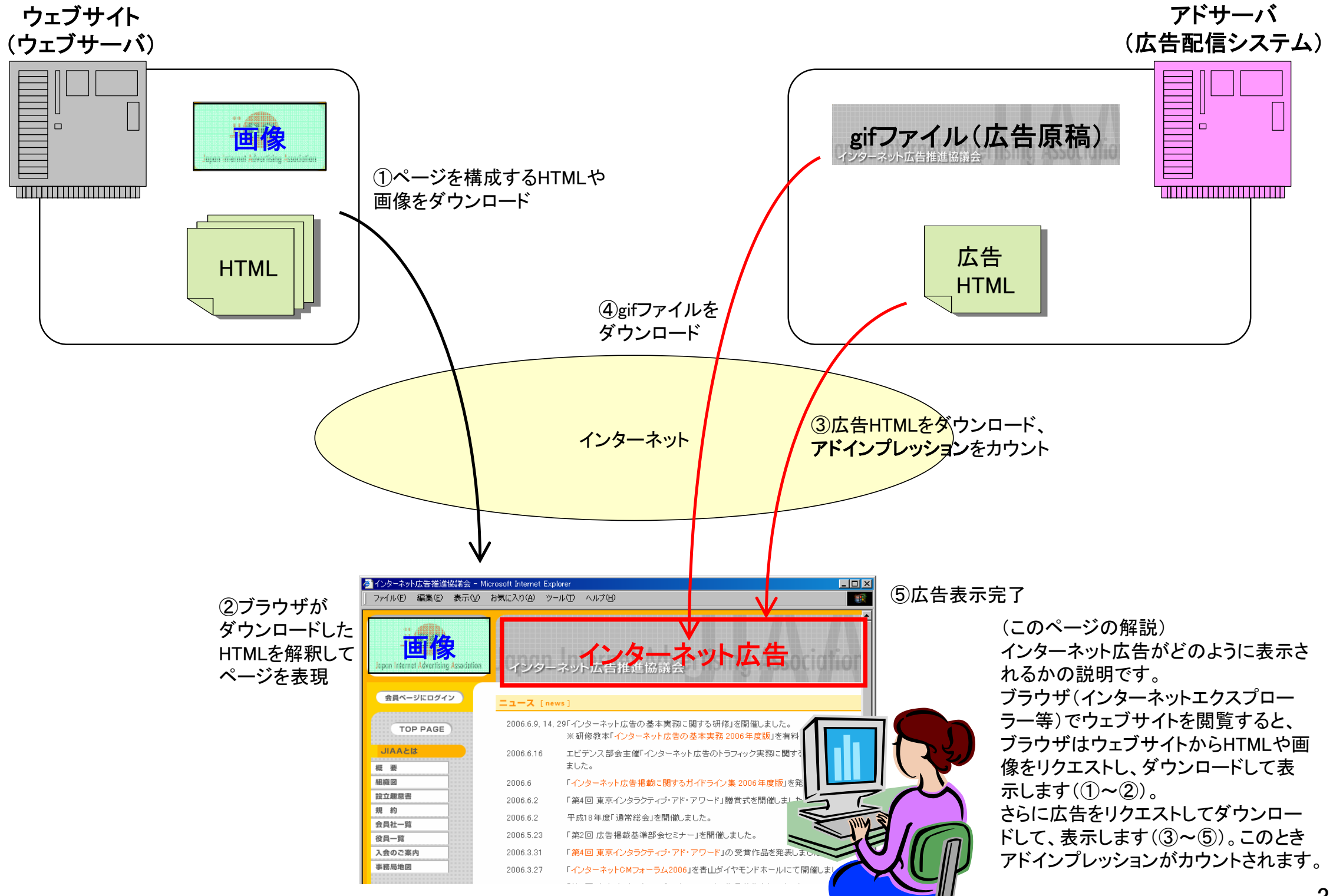
JIAAでは2000年のメディアデータに関するガイドライン制定時以来、インターネット広告の表示回数を示す「アドインプレッション」のカウントは、計測の技術的なレベルを反映し、「ユーザーからのアドリクエスト」(リクエストベース)として定義しています。

アメリカIABでは2004年10月にアドインプレッションの定義を変更し、なるべく最終的なユーザーの視聴に近いところでのカウントとして「OTS(Opportunity To See)ベース」での測定方式を推奨しています。

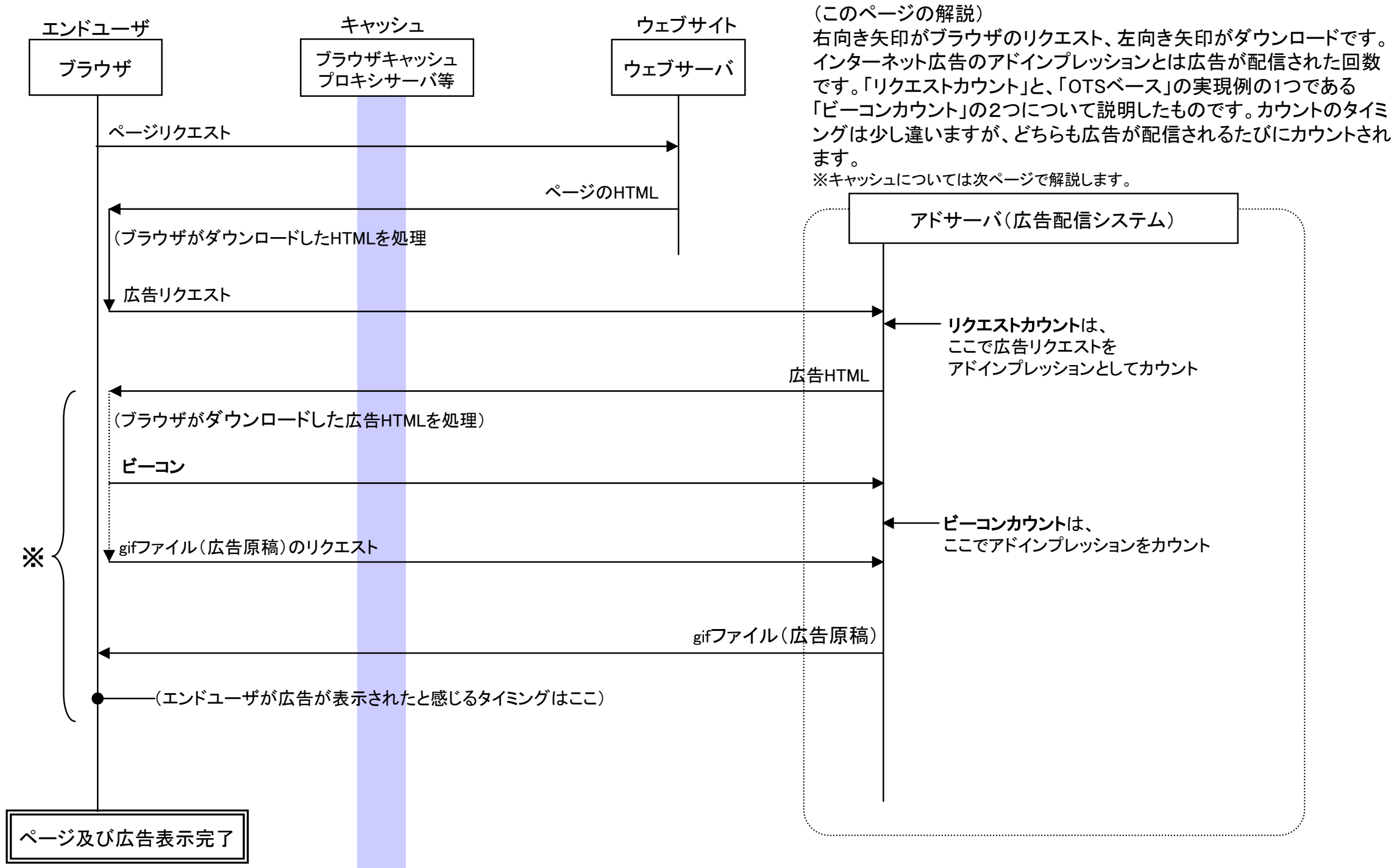
一部の媒体社で「OTSベース」の実現例の1つである「ビーコンカウント」への変更が行われ始めていますが、現在多くの広告システムが「リクエストベース」の測定方式を採用していることを踏まえ、「リクエストカウント」「ビーコンカウント」の2つの測定手法の解説資料を作成いたしました。

インターネット広告に関わる皆様のビジネスの一助として活用いただければ幸いに存じます。

インターネット広告の概要



アドインプレッションの概要



※の部分の解説は次ページ参照

詳細の解説

◇リクエストカウントとビーコンカウントの特徴

・リクエストカウント

広告リクエストを受けたアドサーバが広告HTMLを返す以前にアドインプレッションをカウントします。2006年10月現在、多くの広告システムではこのカウント方法を採用しています。

・ビーコンカウント

アドサーバから配信された広告HTMLの中にビーコン(専門用語。例えば、1x1ピクセル透過gifのリクエスト)が含まれており、アドサーバはこのビーコンのリクエストを受信したときアドインプレッションをカウントします。これは、リクエストカウントと比較して、より広告表示に近いところでのカウントを目指すという考え方「OTSベース」の実現例の1つです。「OTSベース」の他の例として「302リダイレクションカウント」等があります。

◇前ページの※の部分について

以下のような違いが発生する場合があります。ビーコンカウントの回数がリクエストカウントの回数と比較して同等または減少する可能性があります。

- ・ 広告HTMLが通信切断等でダウンロードに失敗した
- ・ 「ビーコン」が発生する前にブラウザのページを閉じた、または別ページへ遷移した
- ・ 「ビーコン」がインターネットセキュリティソフトにブロックされた
- ・ 「ビーコン」がブラウザキャッシュ等でキャッシュされた
- ・ ロボットによるアクセスの場合、途中の広告のHTMLの取得までしか実行されない場合がある。このため「ビーコンのリクエスト」を送信できないものは、排除されることになる

◇キャッシュの最適化

キャッシュとは、ブラウザが以前ダウンロードしたHTMLや画像をパソコン上に保存しておき、同じサイトを再び閲覧したとき、これらを再利用する技術です。

キャッシュ技術は通信量を削減すること(+見かけ上の高速化)を目的として、過去にアクセスした情報を一定期間保持しておく技術です。具体例として、ブラウザキャッシュ(インターネット一時ファイル)があります。プロキシサーバも同じようなキャッシュ技術です。

リクエストカウント、ビーコンカウント両方のバリエーションで、キャッシュをカウントする方法もあります。適切なキャッシュ対策(乱数やHTTPヘッダの付与)が行われていれば、キャッシュしたページを表示したり、戻るボタンで戻ったときにもビーコンが発生し、アドインプレッションがカウントされます。

◇ロボット対策

ロボットとは、ウェブサイトのページをまとめて収集するプログラムのことです。検索エンジンのロボットは専門用語でクローラー、クローリングと呼ばれます。個人用のロボットプログラムもあります(専門用語でWeb巡回ツール)。

ページが収集される時は、実際に人間がブラウザで見ているが、検索エンジンの場合、検索結果の「キャッシュ」リンクのデータとなりますので、人間が閲覧する可能性はあります。また個人用のロボットも同様で、ページ収集後に見たいページだけを閲覧します。

インターネット広告におけるロボット対策にはホワイトリスト(ブラウザの名称)を使用する場合、ブラックリスト(ロボットの名称)を使用する場合、人間の視聴でないと判別されたブラウザ操作・振る舞いを排除する場合等があります。設定条件が厳しいと、人間の視聴によるアクセスを排除してしまうというリスクもあります。

◇まとめ

ビーコンカウントは、リクエストカウントと比較して、広告表示に近いところでのカウント。ロボット排除の向上、キャッシュのカウントによってアドインプレッション数の増減が発生する可能性があります。